

社会学研究科

【2025 年度 大学評価総評】

社会学研究科では社会学コースとメディアコースを統合するためにカリキュラムや履修要件の見直しを行い、履修要件の変更、基礎演習と総合演習の実施方法の変更、さらにカリキュラムマップ・ツリーの改訂、3つのポリシーの見直し、アセスメント・ポリシーの策定をおこない、2025年度からの新カリキュラムの実施を可能にした点は高く評価される。各教員の授業負担と入試の出題負担を適正化することで、学生の実質的な指導時間を拡大した点は評価できる。論文指導については、総合演習での学生の報告に対し指導教員以外からも指導・支援をおこなう「複数教員による指導体制」を構築した点は高く評価できる。このような試みは各種ハラスメントを防ぐ手立てとしても有効であろう。「研究倫理eラーニングコース（eL CoRE）」について、新入生全員が受講したことは評価できる。本研究科における深刻な課題は定員数の充足度の不足であるが、すでに進学相談会の体制強化や学内進学者の掘り起こしのための説明会など改善へ向けて各種試みを実施していることは評価できる。ただ、これらの試みは若干の改善に寄与しているものの基準に達するには至っていない。授業状況について院生からのヒアリングを開始しており、院生の声から入学者増加のヒントが見つかることを期待する。内部進学者については学部での研究意欲の高まりがポジティブに働くことが想定されるため、学部との連携を含め一層の施策の強化を期待したい。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】（参考）

社会学研究科では取り組むべき教育課程や教育内容のあり方を検討し、社会学コースとメディアコースを統合することが教授会で合意され、2025年度からの実施に向け改革の準備が進められていることは高く評価できる。またコース統合を見据え、入試の一本化や科目の見直し、英語入試に外部スコアを導入するなど入試方法の変更を行うことも評価できる。一方、研究科修士課程における収容定員充足率が2022年度よりは改善されたものの、2023年度でも依然として基準を下回っている。教育課程・教育内容の変更や入試方法の変更と合わせ、受験相談会の体制強化や進学希望者の積極的な掘り起こしを検討している点では評価できる。他方でCOVID-19が5類に移行したことを受け、現状の大学院生の意見から授業の在り方や方法について利点や課題を整理し、コース統合後の教育内容や教育方法等に反映させることも重要である。社会連携・社会貢献については具体的な取り組みに至らなかったとの認識で、今後の公開シンポジウムの開催などの検討が始められていることから、こうした取り組みが研究科としての存在を社会や地域に広めることにつながり、ひいては進学希望者を増やすことにもつながることから今後の対応に期待したい。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2025年度から実施する修士課程の新カリキュラムの履修の実態をふまえて、カリキュラムと履修要件の適切性を検討する。入試については、入試方法の変更に伴う受験者の動向の変化をふまえつつ、引き続き受験相談会の体制強化や学内進学希望者の掘り起こしを行う。社会連携・社会貢献については、2024年度に実現した公開シンポジウムの開催を継続していくことによって、研究科の存在の認知度の向上につなげていく。

(2) 改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）

新しく策定したアセスメント・ポリシーに基づき、今後、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果をどのように把握しますか。また、その結果を研究科としてどのように活用しますか。

＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞

＜今後の計画＞

アセスメントシートに基づいて、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を評価し、教授会で結果を共有する。修士過程については、とくに2025年度から実施する新カリキュラムに関連して、学習

成果に変化があるかどうかをふまえて、新カリキュラムとその履修要件の適切性の検討の一助とする。博士後期過程については、従来からのディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムと学位取得に向けた指導の適切性を検討する。

教育課程およびその内容、教育方法について、研究科として過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から《改善した項目》を選択し（レ点チェック）、その詳細について《改善内容》《改善した結果良かった点・課題》を記入してください。

《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

事例

《改善した項目》
（複数選択可）

- ✓ ①開講時期、開講頻度、授業時間等
- ✓ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合）
- ✓ ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等）
- ④教育方法（授業の形態、授業方法等）
- ⑤評価基準、評価方法
- ⑥学生の履修（配当年次等）
- ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続
- ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み）
- ⑨留学、フィールドワーク等プログラムの充実
- ⑩その他

《改善内容》

※理由を含めて記入してください。

【①②③】2024年度までの修士課程の2コース制（社会学コース／メディアコース）を統合し、それに関連してカリキュラムと入試方法の見直しを行った（2025年度修士課程入学生から実施）。これにともなって、3つのポリシー等の基本方針も見直した。コース統合の理由は、学生については、コース間の壁をなくして幅広い履修を可能にすると同時に、院生相互の研究交流の機会を増やすためである。また教員については、開講頻度の調整によって、授業負担を適性化するとともに、入試の出題負担を適性化し、学生の実質的な指導時間を確保するためである。

《改善した結果良かった点・課題》

改善した新カリキュラムは、教員の授業負担の適性化には一定の寄与をした。しかし2025年度修士課程入学生から実施のため、まだカリキュラムと履修要件の評価を下すのは時期尚早である。学生の履修状況をふまえながら、今年度以降に検討を進めていく。

入試については、2024年度に実施した2025年度入試において、コース別出題の一本化と英語の外部入試の導入という新方式を実施した。これによって、入試の出題負担が適性化された。入試の結果の評価については、2026年度入試以降の状況もふまえて検討していく。

（3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

・教員組織に対する取り組み※

※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》

《対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。》

《対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

《特色または課題》

課題

《項目》

教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

《内容》

2025 年度から修士課程の 2 コース制（社会学コース／メディアコース）を統合し、それに関連してカリキュラムと入試方法の見直しを行った（2025 年度修士課程入学生から実施）。教員組織については、授業負担と入試の出題負担を適性化し、学生の実質的な指導時間を確保することを目標としている。とくに論文指導について、すでに実施している制度ではあるが、総合演習（修士課程は各学年について年 2 回、博士後期課程は全学年について年 2 回）における学生の報告に対して、教員の一層の参加を促進し、指導教員以外からの助言やコメントによる指導・支援を行うことによって、教員組織全体の各学生に対する関心と指導・支援意識を高め、研究科全体としての指導体制の充実をめざしていく。

Ⅱ. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

研究科における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞ ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(2) オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について（報告）」（2023 年度第 4 回研究科長会議資料 No. 2）に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(3) 学生の声を活かした取り組み

研究科レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(4) 定員管理の適正化

研究科の在籍学生数を適正に維持する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	B (更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある)
《対応する大学基準：学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》 上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 《内容》 定員数の充足度が、若干は改善したものの、依然として基準を下回っている。 すでに進学相談会の体制強化や学内進学者の掘り起こしのための説明会を実施して、若干の改善に寄与しているものの、基準に達するには至っていないので、引き続き進学者の掘り起こしに努める。また2025年度入試（修士課程）について、従来の2コース（社会学コース／メディアコース）の統合に伴う入試問題の一本化と英語外部試験の導入を行った。受験者数の動向を見ながら、必要に応じてさらに改善を検討していく。		

Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。
年度目標		2025 年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、カリキュラムと履修要件を見直す。
達成指標		教授会でカリキュラムと履修要件の見直しについて議論を行い、2025 年度からの新カリキュラムを作成する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	ワーキンググループを設置して各種課題の具体的な検討を行い、社会学コースとメディアコースを統合した2025年度からの新カリキュラムを作成するとともに、カリキュラムマップ・ツリーの改訂、3つのポリシーの見直し、アセスメント・ポリシーの策定を行い、2025年度からのコース統合によるカリキュラム実施を可能にした。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コース統合の実施においては教育課程において様々な課題が生じることが想定される。それに対し具体的な検討を行い、新たなカリキュラム改訂やポリシーの見直しを行ったことは、高く評価できる。
	改善のための提言	—
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。
年度目標		アフターコロナにおけるオンライン授業の利点や課題などを整理する。
達成指標		アフターコロナにおける状況について、院生からの聞き取りをアップデートし、授業のあり方について教員間で議論する機会を設ける。
年 度 末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	2025 年 1 月に院生との懇談会を実施し、アフターコロナにおける院生の教育研究環境についての現状と問題点の聞き取りを行い、その結果を教授会で共有した。

報告	改善策	日程の関係で、懇談会に修士課程の院生の参加がなかったので、日程とテーマの設定を工夫して、より広く院生の声を聞き取るとともに、教員間で共有して授業をはじめとする教育研究改善の材料にする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	院生との懇談は大学院の教育環境向上に重要な取り組みであると評価できるが、修士課程の院生の参加がなかったことは残念であった。
	改善のための提言	改善策にも記されているように日程とテーマを工夫することにより院生参加が望まれる。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。
年度目標		社会学研究科に求められる院生像を整理し、カリキュラムやオリエンテーションのあり方を検討する。
達成指標		研究倫理の重要性についてオリエンテーションで説明するとともに、「基礎演習」で「研究倫理 e ラーニングコース (eL CoRE) 履修を必須とし、受講を研究科長に報告する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「研究倫理 e ラーニングコース (eL CoRE)」について、オリエンテーションで意義を説明し、「基礎演習」担当教員の協力を得て倫理教育を必須にした。受講を研究科長に報告するフローを実施し、修士課程、博士後期課程ともに、新入生全員が受講したことを確認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究者を育成する大学院において、研究倫理研修を必須としたことは、社会学研究科に求められる院生像のひとつの具体的な現れといえる。担当教員の協力を得ての実施や報告フローにより仕組み化されていることが良い。
	改善のための提言	—
	評価基準	学生の受け入れ
中期目標		教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。
年度目標		2025 年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、入試のあり方を見直す。
達成指標		入試をコース別から一本化し、英語を外部試験として実施する。そのために、受験相談会の体制を強化するとともに、学内進学希望者の掘り起こしを行う。またその結果について検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2023 年度に決定された方針に基づいて入試をコース別から一本化し、英語を外部試験として実施した。これによって教員の入試負担の軽減が図られた。7 月、12 月に受験相談会を実施し、学外受験者への対応を図った。また 6 月に院生による学内相談会を実施して、学内進学希望者の掘り起こしを行った。受験動向と入試結果については、教授会で共有した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	英語の外部入試実施により負担軽減が図られた。教育の充実のためには適切な負担軽減も必要なことである。学内相談会の実施により、大学院の周知が期待できる。

	改善のための提言	学内相談会は効果をあげつつある。継続的な実施と学部生へのさらなる周知が望まれる。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
	年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について整理する。
	達成指標	コース統合にともなって、教員組織のあり方や適切な科目について整理し、教員間で議論する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	ワーキンググループにおいて、コース統合をふまえた教員組織のあり方や科目についての現状を整理し、2025 年度からのコース統合によるカリキュラム実施のための修了要件や科目名を改訂し、また教員の科目担当のあり方も確認し、教授会の審議を経て、新カリキュラム実施の体制を整えた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ワーキンググループにより、コース統合に伴う教員組織のあり方や科目についての整理が行われ、それをもとに修了要件や科目名の改訂といった体制を整えたことが評価できる。
	改善のための提言	—
	評価基準	学生支援
	中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
	年度目標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理する。
	達成指標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理し、教員間で議論する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	ワーキンググループにおいて、コース統合にともなう基礎演習と総合演習の実施の仕方を検討し、どちらも一本化して行うことを決定するとともに、具体的な実施において起こりうる新たな問題点とその対処について議論した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コース統合にともなう基礎演習と総合演習の 1 本化に対し、起きうる問題点を検討し、その対処を議論することは学生支援において大切な視点である。
	改善のための提言	コース統合後の基礎演習、総合演習の進め方について、担当教員間の意見交換を密にしていけることが望まれる。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
	年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認し、具体的な取り組みの実施を目ざす。
	達成指標	具体的な取り組みとして、公開シンポジウムの開催に向けて検討する。
年 度 末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2024 年 7 月に、法政大学社会学部学会と共催で、公開シンポジウム「生（ライブ）の現場」から障害と運動を問い直す」をハイフレックス方式で開催した。

報告	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	公開シンポジウムの実施だけでなく、そのテーマも社会学研究科に適合したもので、ふさわしい連携といえる。
	改善のための提言	公開シンポジウムの継続的な実施とその充実のために、学部教授会、専攻委員会の学生とのコミュニケーションを密に取ることが望まれる。
【重点目標】 2025 年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、カリキュラムと履修要件を見直す。		
【目標を達成するための施策等】 教授会でカリキュラムと履修要件の見直しについて議論を行い、2025 年度からの新カリキュラムを作成する。		
【年度目標達成状況総括】 重点項目である社会学コースとメディアコースの統合のために、カリキュラムや履修要件の見直しを行い、2025 年度からの新カリキュラムを作成するとともに、履修要件の変更、基礎演習と総合演習の実施方法の変更を行い、さらにカリキュラムマップ・ツリーの改訂、3つのポリシーの見直し、アセスメント・ポリシーの策定を行って、2025 年度からの新カリキュラムの実施を可能にした。		

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。
年度目標	2025 年度から実施する修士課程の新カリキュラムの履修の実態をふまえて、カリキュラムと履修要件の適切性を検討する。
達成指標	教授会で新カリキュラムの履修の実態を共有し、カリキュラムと履修要件の適切性について教員間で議論する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。
年度目標	アフターコロナにおけるオンライン授業の利点や課題などを整理する。
達成指標	アフターコロナにおける状況について、院生からの聞き取りをアップデートし、授業等のあり方について教員間で議論する機会を設ける。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。
年度目標	社会学研究科に求められる院生像を整理し、カリキュラムやオリエンテーションのあり方を検討する。
達成指標	研究倫理の重要性についてオリエンテーションで説明するとともに、「基礎演習」で「研究倫理 e ラーニングコース (eL CoRE) 履修を必須とし、受講を研究科長に報告する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。
年度目標	2025 年度からのコース統合に伴って一本化した入試の適切性を検討する。
達成指標	出題の適切性を検討する。また受験相談会の体制を強化するとともに、学内進学希望者の掘り起こしを行う。進学者数の確保とも関連させて、入試の結果について検証する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について整理する。

達成指標	コース統合にともなって整理した教員組織のあり方やカリキュラムについて、教員間で議論する。
評価基準	学生支援
中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
年度目標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理する。
達成指標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理し、教員間で議論する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認し、具体的な取り組みの実施を目指す。
達成指標	具体的な取り組みとして、公開シンポジウムの開催に向けて検討する。
【重点目標】 2025 年度から実施する修士課程の新カリキュラムの履修の実態をふまえて、カリキュラムと履修要件の適切性を検討する。 【目標を達成するための施策等】 教授会で新カリキュラムの履修の実態を共有し、カリキュラムと履修要件の適切性について教員間で議論する。	